

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1号館)**

事業所番号	2770901193		
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会		
事業所名	グループホームともしび		
所在地	大阪府高槻市安岡寺町6丁目5番14号		
自己評価作成日	令和3年1月28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年3月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然の豊かな環境に恵まれた当施設では、穏やかな時間が流れ、安心して生活して頂けるよう、思いやりのある寄り添う介護を行っています。生活の中に学習療法を取り入れ、生活リハビリを工夫する事により、コミュニケーション力の向上や活性化に繋げています。  
 家族様だけでなく、見学に来られた方の困り事や介護に関する相談・質問にも親身になって受け答えし、地域に開かれた施設になるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

多種の福祉施設を運営する社会福祉法人“ともしび福祉会”を冠とする当事業所は平成14年4月に開設され、自然豊かな四季を感じ取れる環境下にある。生き生きと充実感がある生活と穏やかで安らぎを保ちながら、有する能力を活かして暮らせる事業所を目指して、管理者・職員間のコミュニケーション力と連携を密にしてケアに取り組んでいる。計算や文章の読み書きの学習療法や掃除・洗濯物のたたみ・食事一連の手伝い等の生活リハビリの取り入れや、ラジオ体操・ストレッチの運動を行い、身体動作の能力向上と認知症状の緩和と進行の予防を図っている。協力医院の主治医と常駐の看護師による医療及び健康管理は利用者・家族から安心して任せられると信頼を得ている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念を念頭に置きつつ、グループホームの理念である『いつでも、どこでも、その人らしく、最後まで』を共有し、入居者様に家庭的な環境と馴染みの関係作りに努めています。	“いつでもどこでもその人らしく最後まで”の事業所理念と“人格を尊重し笑顔を大切に地域の人と共生し楽しく暮らせるように努力します”の内容の方針を事務所と各ユニットの目につく所に掲げ、毎月の職員会議で意識の徹底を図り、ケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	・毎月行われる定期的な方や、不定期な方があります。地域のボランティアが来館されています。 ・散歩時は、地域の方に挨拶をしたり、気軽に声を掛けてもらっています。	周辺散歩時や近くの神社への外出時に地域の方達と挨拶を交わしている。ボランティアによる楽器演奏(ギター・オカリナ・大正琴)やハンドマッサージなどの受け入れは昨年来コロナ禍の影響で自粛している。毎年恒例の夏祭りには近隣にチラシを配布してゲームなど一緒に楽しんでいたが去年は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議にて認知症についてや、地域の高齢者の現状についての情報・意見交換を行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回開催しています。会議では地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民の代表、家族様、入居者様に参加頂き、意見交換を行っています。また議事録は全ての家族様に配布しております。	運営推進会議構成メンバー参加の下、奇数月の実質開催としていたがこの一年は、事業所の現状・行事報告利用者の状況とホームの今後の取り組み内容を記した文書での報告で、以前の会議開催時の意見交換や要望の聴き取りが不可となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・必要な情報を定期的に頂いています。 ・課題が判明した際には、その都度連絡、相談し適切なアドバイスを頂いています。 ・市が行う『認知症イベント』にも参加、協力し施設での支援にも活かしています。	市の福祉担当者とは主に電話で、事業所の現状や取り組み内容を伝え、情報・指導及びアドバイスを受け連携を取り合っている。公的扶助受給者の書類手続きや市の介護相談員の月1回の訪問(現在は中止)を受けて、利用者の声の橋渡しを得てケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に研修を行い、職員全体が身体拘束による弊害や身体拘束となる行為を理解しており、ホームでは身体拘束・抑制を絶対に行わない方針を掲げています。</li> <li>・玄関は基本的に日中の時間帯は開錠しています。</li> </ul>	身体拘束についての研修や適正化委員会による勉強会で内容と弊害について理解の深化に努めている。身体拘束マニュアル・適正化指針文書を整え、拘束をしないケアの実現に取り組んでいる。日中玄関は開錠し自由な暮らしを支援し、センサーマット使用の人には家族の了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止マニュアルに基づき、日常より虐待防止の徹底に努めています。また、定期的に研修を行い、虐待に関する知識の習得に努めています。</li> <li>・高槻ともしび苑の各部署職員で構成されている衛生委員会では職員のストレス軽減に向けた取り組みも行っています。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人が行う『人権研修』を職員は毎年受講しています。</li> <li>・成年後見人制度については、パンフレットを閲覧できる場所に設置しています。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約前、退去前に入居者様、家族様にお話を伺い、不安の無いように努めています。</li> <li>・契約時には重要事項説明書にて説明し、ご理解、ご納得を頂いています。改訂等があった際には家族会等で説明を行い、同意書を頂いています。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回開催している家族懇親会では総会と各階ごとの分科会を設け、家族様からの意見を聞き取りやすい環境を設けています。また目安箱を設置し、意見等伝えやすい仕組み作りに努力しています。</li> </ul>	利用者には日々の生活の中で意見・要望を聞き、表す事が困難な人には声掛け・問い掛けを行い、傾聴や表情・動作で把握している。家族には訪問時や年1回の家族会において意見を聞く好機だったが、現在は不可となっている。タブレットを利用した面会は表情が捉えにくいとの意見に、玄関の一面にビニールカーテンの仕切りを使用して面会を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回定期的に開催している事務所会議にて意見交換の場を設けています。</li> <li>・職員が気付いたことを書き出す『気付きメモ』を用意し月単位で出た情報を取りまとめ、職員間で共有するようにしています。</li> </ul>	<p>管理者・職員間のコミュニケーションは良好で、定期的な職員会議や日々のケアで意見・気づき・提案を聞きケアに取り入れている。被害妄想の人(物を取られた・壊された)の対応に職員からの提案で、職員各々が自己紹介をして名前を覚えてもらい、安心と信頼感を築いて悩みの解消に努め、状態が緩和した事例がある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての職員に対し、努力・実績に見合った給与の見直しを年1回行っています。</li> <li>・職員との個人面談も実施し、職員の意見も聞きながら職場環境の改善に努めています。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に法人研修や内部研修を行い、積極的な参加を促しています。外部研修に関しては、職員の希望を踏まえながら、大阪府社会福祉協議会や認知症グループホーム協会が主催する研修に参加出来る体制となっています。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一法人の飛鳥ともしび苑グループホームと定期的に情報交換を行っています。</li> </ul>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の変化で入居当初は不安になられる事もあります。生活歴等をご本人や家族様より情報提供して頂き、それらを職員間で共有し安心出来るコミュニケーションに時間を取るよう努めています。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族様の要望、疑問点等を伺い、ご本人や家族様のニーズを把握し、安心して生活が送れるよう、家族様にも協力をお願いし、早く信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・これまでに利用されていた他のサービス提供機関から詳細な情報を聴取し、何が必要か、何を望まれているかをご本人、家族様、職員間で話し合い、インフォーマルの支援を含む援助体制を築いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家事等を職員と一緒にやる事により、残存能力を発揮し、達成の喜びや協調性も養われ、生きる喜びへと繋がっていく関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族様との絆を大切にしております。家族様には面会や外出、行事等、自由に出入りして頂いています。 ・2ヶ月に1回の運営推進会議等、ご本人を中心に職員、家族様が協力しながら支えていく関係を継続しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・食事会や墓参り等の外出や外泊を自由に行い、楽しんで頂いています。友人等の面会も受け入れており、在宅の際と同じように馴染みのある人や場所等の関係継続の支援に努めています。	親族・家族の訪問があり、手紙のやり取りや電話の取次ぎを行い馴染みの関係継続の支援を行っている。墓参り・外食・外泊は家族の協力の下行われていたが、現在は不可となっている。コロナ沈静化後には馴染みの人、場への関わりを働き掛けたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員は入居者様の性格や相性を見極めに関わっています。特技や趣味を活かし、全員参加の全体レクリエーションや生活リハビリ等を生き生きと楽しんでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・転居することになった際には転居先のサービス機関に入居者様の生活についての情報を伝え、スムーズに新しい生活に行こう出来るように努めています。 ・退去された方や家族様かご相談があれば、支援させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者様の訴えを傾聴し、困難事項は計画作成担当者を交え、話し合いの場を設けています。 ・職員間ではケアカンファレンス時や日常の報連相、介護記録で情報を共有し、問題点の把握・解決に取り組んでいます。	日々の関わりの中で、問い掛け・話しかけや傾聴に努めると共に、言葉や表情で一人ひとりの思いや意向に関心をはらっている。個別のニーズやどのような暮らし方がベストかを把握し、計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に面談を行い、事前に状況を把握し、ご本人や家族様からも、これまでの生活歴や趣味、嗜好等の聞き取りを行い、サービス計画へ反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者様の安心・安全な生活のため、申し送りや申し送りノートの活用、報連相を大切にしています。また日々の記録やケアカンファレンスで入居者様の状態について職員同士情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画は6ヶ月ごと、又は状況の変化がある時は、その都度見直しを行っています。 ・支援経過記録や月1回のケアカンファレンスを元に、6ヶ月ごとにモニタリングを行い、ご本人、家族様、職員による担当者会議を実施し介護計画を作成しています。	身体状態(水分補給・排泄・入浴・食事・受診内容等)や様子をタブレットに記録した資料・介護支援記録・報連相ノート・訪問診療ノートを参考に毎月のカンファレンス会議と6ヶ月毎のモニタリングで検討し、短期6か月・長期1年の計画作成を行っている。担当者会議には利用者・家族も参加し個々のニーズに沿った計画作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の健康状態や様子等は、毎日タブレット端末で記録を行い、普段と異なる場合や気付いた事は職員間で共有し、すぐに対応出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状況の変化に応じ、既存のサービスの他にインフォーマルサービスを検討、協力をお願いしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・定期的にボランティアとの触れ合いがあります。また年2回外食会を行い、地域の社会資源を利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・第1、3水曜日は1号館。第2、4水曜日は2号館で定期的に訪問診療を受けています。24時間電話連絡可能であり、必要時は協力医療機関と連携し夜間や急変時の対応体制も整備しています。 ・診療科目によっては、入居前からのかかりつけ医を引き続き受診して頂くことも可能です。	利用者・家族の納得と理解を得て、協力医療機関の内科(月2回)、歯科(必要時)の訪問診療を受けている。脳外科・整形外科の外部受診は家族が同行している。「訪問診療記録簿」を参考に症状や薬剤の管理と効能を職員は共有している。常勤看護師(週4～5日)による健康管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問診療時に看護師も同席し入居者様の状況を確認・把握しており、必要時には助言を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・医療機関、家族様と連絡を取り合いながら、情報交換、状況の確認を行っています。退院時には再入居に備え、病院担当者、家族様を交え担当者会議を実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご本人、家族様の希望を第一と考え、状況に応じ出来る事、出来ない事を明確にし、主治医、医療機関の意見を聞きながら対応しています。	「グループホームにおける重度化対応に関する指針」の文書で出来る事、出来ない事を契約時に伝え、今迄看取りは行っていなかったが、利用者・家族の要望や終の棲家としての暮らしを念頭に、重度化及び終末期対応の体制作りを検討している。	今までは看取りの事例はないが、常駐看護師による急変時の対応が可能となり、事業所全体で看取りの研修の習熟に努め、家族の連携及び主治医との協力体制を確立し、終末期ケアに臨んで頂くことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアル作成、緊急連絡網の整備をしています。また職員全員が救命救急講習を受け、緊急時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害対策用のマニュアルを作成し、年3回の防災訓練を行っています。 ・災害時の食料と水、衛生用品等備蓄しており、賞味期限等を定期的に点検・補充しています。	年3回の訓練実施は各々火災時の日中、夜間、自然災害時想定で行われている。近隣に法人関連福祉施設(特養やデイサービス・ショートステイ)があり災害時は地域の福祉避難所に指定されていて、施設間の協力と連携が構築されている。水・食料などの備蓄保存食一覧表で管理保管し、緊急連絡網・自動火災通報装置が整備されている。。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、法人主催による接遇研修を受講し、介護現場での対応に活かしています。</li> <li>・入居者様は人生の先輩である事を念頭に置き、自立と尊厳が保てるような声掛けや対応にて接しています。</li> </ul>	接遇研修で対人ケアでの権利と尊厳について周知徹底し、呼び方は丁寧を心掛けて「さん」呼びに統一している。入浴やトイレ時は自立や尊厳を重視して、羞恥心への気配りや声のトーンに配慮している。職員間で不適切な対応時には、注意しあう関係と環境があるが、言いにくい内容の際には管理者・計画担当者が適時対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の訴えを傾聴し、思いを受け止め、納得して頂ける支援を行っています。</li> <li>・学習療法を取り入れ、コミュニケーションや自己表現の向上を目指しています。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様一人ひとりの個性に添った生活ペースに合わせ、時には見守り、時には声を掛け、柔軟な対応を心掛けています。</li> <li>・その方の得意な事を皆様に披露する事で互いに認め合い、意識の向上に努めています。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己決定が出来る方はおしゃれを楽しんで頂けるように意向を尊重しています。ご自分では決定が難しい方は、職員が意向を確かめながら共に考える支援をしています。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回、入居者様と職員と一緒に食事を作っています。野菜の皮むきや包丁で切る等、それぞれの出来る事を活かした役割に取り組みよう支援しています。</li> <li>・食事中、職員は見守りを主体に入居者様の隣に座り会話も楽しめる雰囲気作りに努めています。</li> </ul>	食材業者が献立を作り、事業所は調理済のレトルト食を温めているが、手作りデイを週2回(火・木曜日)を設けて、木曜日は(カレーライス)とし、火曜日は利用者の好みを聞いて、食材購入と調理を職員と一緒に手作りしている。利用者は包丁を使う人や盛り付け・テーブルふきなど役割を担って、おやつレクレーションやイベント時の食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。それらを職員間で共有し、個々の状態や習慣に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、一人ひとりに必ず声をかけ歯磨きをして頂いています。ご自身で難しい方は職員が付き添います。義歯は週に1回洗浄剤にて清潔保持に努めています。 ・協力歯科医院と連携し口腔ケアマネジメントを行っています。 ・必要に応じて訪問歯科受診や定期的な訪問口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・失禁をされる入居者様の尊厳を大切にさり気ない誘導と更衣をお願いしています。ADLの状況等でリハビリパンツ、パット等の使用をモニタリングしながら、不快感無く過ごせるように心掛けています。	完全自立の人もいるが、オムツ交換(2名)以外はリハビリパンツ・パットを使用して、トイレへの誘導により排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は2時間ごとの見回りだが、一人ひとりの状態に配慮して、自室のトイレやポータブルトイレ(2名)への誘導を行い睡眠重視の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食材に食物繊維の多い野菜類やバナナ、牛乳、ヤクルト等を毎日摂取して頂いています。 ・水分を多く摂って頂けるよう声をかけたり、散歩や軽体操を行い便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週3回の入浴を楽しんで頂いています。入浴を好まれない方にも声掛けを工夫しながら入浴して頂いています。 ・菖蒲湯、ゆず湯等で季節湯を楽しんで頂いています。	入浴は週3回の午後とし、湯の交換は溢れさせてのかけ流しとしている。身体状態に応じての2人介助(2名)や、拒否の人には声かけに工夫をして、ほとんどの人が浴槽に浸かっての入浴となっている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの生活リズムに合わせた援助をしています。室温、湿度、物音等に気を配り、快適な生活空間作りを心掛けています。</li> <li>昼食後から入浴時間までは自由に過ごして頂けるようにし、午後からの生活の活性化に繋げられるようにしています。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬の説明書をファイルで保管し、各階と事務所で管理しており、用法等の確認がすぐに出来るようにしています。</li> <li>服薬時は誤薬を防ぐために、【顔・氏名・日付・時間帯】の確認を行い、最後の飲み込みまでその場を離れないようにしています。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等、個々に合わせた役割を持って頂いています。</li> <li>ボランティアによる演奏や日舞の披露、職員による行事等に参加して頂き楽しんで頂けるように支援しています。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日の体調に合わせ、気候の良い日には散歩に出掛けています。家族様にも協力頂き、買い物や食事等の外出にも出掛けています。</li> <li>年2回の外出会の他に花見や紅葉ドライブ等も行っております。</li> </ul>	<p>コロナ禍以前は車で外出に出かけ、図書館(車で10分)やお花見、紅葉狩り(摂津狭)に出かけて楽しんでいましたが現在は遠出は控え、日常的に近隣への散歩、事業所から300m先の神社への参拝やスーパーへの買い物の外出をしている、事業所の菜園やお花の水やりを行い、季節を感じながら外気浴や気分転換を図っている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族様よりお小遣いを預り、金庫にて管理しています。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話は要望があれば取り次いだりしております。また携帯電話をお持ちの方は自由に家族様とお話をされています。</li> <li>・毎年、年賀状を作成し、ご本人で名前や一言を書いて頂いています。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関前の花壇に入居者様と一緒に花を植えたり、家庭菜園などを行っています。温かい季節には中庭のベンチに座り日光浴を兼ねて花の観賞をしています。</li> <li>・館内の壁には入居者様が作られた季節の飾りや行事の写真を飾っています。</li> </ul>	リビングに畳のスペースがありショータイムの舞台として活用し、腰掛けての休憩や洗濯物たたみの場となっている。テーブルは2~4人掛けで配置し、介護レベルや気の合う人達でテーブルを囲んでいる。1階のリビングからウッドテラスに繋がり、日光浴を味わったり花や野菜を育てたり、テーブルを囲んでティータイムや歌を唄って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畳の間や食堂ではテレビを観たり、新聞を読まれたり、仲の良い方とお話をされたりと皆様が自由に過ごして頂けるようにしています。</li> <li>・食堂席は入居者様の状況や関係性に配慮して配置させて頂いています。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使い慣れた馴染みのある家具を持ち込んで頂き、落ち着いて安心出来る生活空間になるように心掛けています。</li> <li>・入居者様の状況によって安全な空間が必要な場合は、入居者様や家族様と話し合いを行い決めています。</li> </ul>	居室前の写真入り表札には担当職員(2~3名)の名前を記し、ベッド・防災カーテン・クローゼットと1階全室に洗面トイレ(2階は1室のみ)が配置されている。利用者は家族と相談してハンガーラック、ソファ、小物、タンス、ローチェスト等の馴染みの物を持ち込み、生花を好む人には花を準備する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各居室の入り口にご本人の顔写真と表札を掲げ、自室が判りやすいようにしています。</li> <li>・建物内部は安全かつ温かみのある木製の手すりを設ける等、落ち着いた作りになっております。居室には手すりを増やし、自立支援と安全面を強化しています。</li> </ul>		